

「令和7年度 大学における芸術家等育成事業」

国際シンポジウム「伝統木版画の総合アーカイブ構築とアート連携を通じた
人材育成支援プログラム」(ワークショップ報告会)

日時：12月19日(金) 9:30-17:30 (JST)

場所：立命館大学アート・リサーチセンター／オンライン (Zoom)

ZOOM: https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_V7UBxtVbTO2hYwhNMYVquw

ウェビナーID : 954 4522 3588

パスコード : 890604



プログラム

9.20-9.30: ご挨拶

【第1部：基調講演】

9.30-9.55: 赤間 亮、松葉涼子「木版画デジタルアーカイブの現在地と未来
——研究と表現をつなぐ試み(仮題)」

(休憩 5分)

【第2部：作品上映】

10.00-12.00: Washi+「Paper」の上映会

解説 濱田あゆみ (Washi+代表)

(昼休憩 1時間)

【第3部：報告発表会 (オンライン中心)】

13.00-13.10: 発表趣旨説明

13.10-13.30: 明 才 (オンライン)

13.30-13.50: 澤永実季 (オンライン)

13.50-14.10: 野田倫加 (オンライン)

(休憩 10分)

14.20-14.40: 小林圭子 (現地)

14.40-15.00: 古川朋弥 (現地)

15.00-15.20: 藤田恵梨子 (オンライン)

(休憩 10分)

15.30-16.00: Mia O (オンライン)

16.00-16.20: 小川信人 (オンライン)

16.20-16.50: Natasha Norman Moodley (オンライン)

16.50-17.20: Lucy May Schofield (オンライン)

17.20-17.30: 閉会の挨拶

(敬称略)

国際シンポジウムについて

【第1部：基調講演】

本事業代表の立命館大学・赤間亮、松葉涼子からは、これまで蓄積してきた木版画関連の記録映像とデータベースの現状報告を行い、オンライン環境の整備によって浮世絵木版画画像へのアクセスが容易になったことが現代の芸術表現に与える影響について問題提起します。あわせて、現行データベースの課題や情報の欠落を示しつつ、各地域で保管されている映像資料やオーラル・ヒストリーの提供を広く呼びかけ、今後のアーカイブ構築に向けた共同作業の可能性を探ります。

【第2部：作品上映】

高知県の町を拠点に「和紙」をテーマとした演劇活動を展開している Washi+（代表：浜田あゆみ）による作品「Paper」を上演し、木版画とは全く異なるメディアである舞台芸術において、「和紙」がいかに新たな芸術表現として活用されているのかについてのプレゼンテーションを行います。

上映会：「Paper」

シンガポールを拠点に国内外で活躍し、近年日本でも精力的に活動を展開している戯曲家兼演出家の、チョン・ツェシエン氏を高知県に招聘して創り上げた演劇作品です。2018年の紙漉き職人や原料農家へのリサーチを経て、2019年にはショーケースを実施。コロナの感染拡大により本公演は延期を余儀なくされていましたが、2024年8月に Washi Meets Art Festival 2024（主催：Washi+、La forêt）の一演目として、高知県立美術館ホールにて待望の世界初演を行いました。

脚本・演出

Tze Chien Chong（チョン・ツェシエン）

出演

立本夏山（たちもとかざん）
井上貴子（いのうえたかこ）
原啓太（はらけいた）
浜田あゆみ（はまだあゆみ）

Washi+

2015年よりいの町を拠点に舞台芸術を使って和紙の魅力を再発見すること、また、地域における舞台芸術の可能性を広げていくことを目標に活動している。特定の演出家を持たず、公演ごとに演出家や作家を募るプロデュース形式で舞台公演を行う。

【第3部：報告発表会】

2025年10月13～19日に高知・美濃・越前・京都で実施したワークショップの成果を、参加者自身による報告発表として検証します。ワークショップでは、各地域の和紙産地を訪問し、原材料の特性やその確保の課題、煮熟・叩解・紙干しなどの制作工程について現場で学ぶとともに、それぞれの産地で作られた紙を用いた摺のワークショップを通じて、紙質の差異が木版画の発色や肌理、耐久性などの表現にどのような影響を与えるかを実践的に考察しました。

参加者は、国内外から応募のあった木版画制作者の中から選抜された10名で構成されており、本報告会は、単なる活動紹介にとどまらず、彼らが本プログラムを通じて得た知見や問題意識の変化——すなわち、版画制作における「材料」と「産地」の位置づけ、伝統的な和紙産業と現代の創作実践との関係性に対する理解の深化——を共有する場とすることを目的としています。

